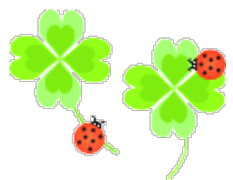


ごくあたり前の生活を目指して



～今、地域支援がやるべきこと～

菅野 治子 氏

(社会福祉法人 朋志美会
しののめハウス)

プロフィール

1964 年4月
財団法人浅香山病院 入職

1998 年3月
精神障害者通所施設「しののめハウス」創設
施設長就任

2002 年4月
財団法人浅香山病院 退職

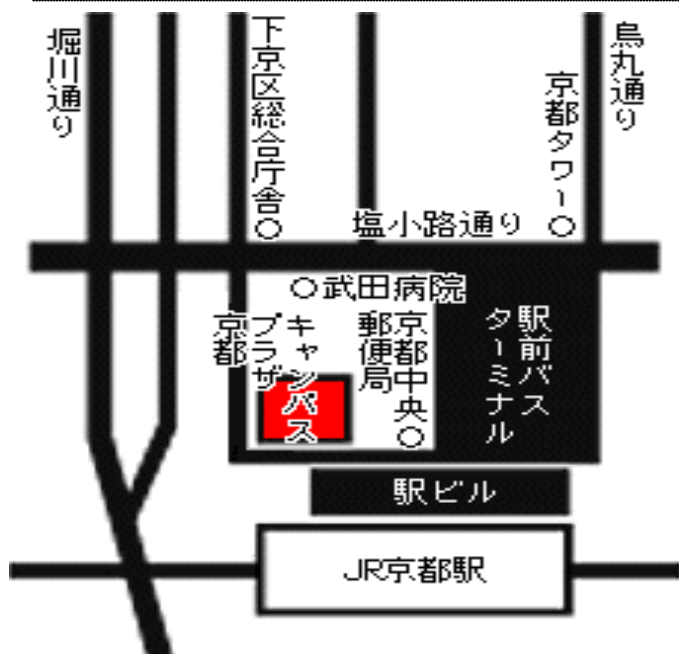
2003 年3月
社会福祉法人朋志美会 創設
理事長就任 (至現在)

昨年、我が国は障害者権利条約に批准したものの、現実的に積み残された課題は山とあります。精神保健福祉の分野に限って言えば、長期入院患者の問題は避けては通れません。

今回の講演では長年にわたり長期入院患者の退院支援に携わって来られた『しののめハウス』の菅野治子氏をお招きします。

菅野氏は「精神障害者である前に一人の人間なんだ」「人としてかけがえのない存在」「自分の生活は自分で決めることができる」と、精神障害を抱える当事者の主体性と活動の機会を奪わない支援を貫いてこられました。その秘訣は「病状をなくすのではなく、元気になることを目指した自己実現の支援」だと仰ります。

長期入院をされていた方の地域生活の支援のあり方について、しののめハウスでの実践を通したお話を伺い、今、私たちができる地域支援について考える機会にしたいと思います。



- 【日時】 2015年 6月21日(日)
開演 13:30 (終了15:30予定)
- 【場所】 キャンパスプラザ京都 (JR京都駅北側)
2階 ホール
電話 075 (353) 9100
- 【参加協力費】 500円
- 【主催】 京都精神保健福祉施設協議会
事務局 京都市朱雀工房
電話 075 (314) 0835
FAX 075 (314) 0781